「資治通鑑」全訳から見える古墳時代
邪馬台国から雄略天皇日本と中国

令和2年7月11日

楯築サロン代表
全国邪馬台国連絡協議会副会長・中四国支部長
NPO法人公共の交通ラクダ会長
岡將男

シルクロード=自動車＝スマホ

=コミュニケーションツール

人はつながりたい
人は珍しいものがほしい

欲しいものに付加価値
文化･遊び＝付加価値
UD=共通の付加価値

昭和50年からのゆうなぎ鉄道
「古墳のあるレイアウト」湯迫車塚古墳

経営者が書いた
歴史小説・第一回

古備王国の興亡

勾玉（まが たま）の首飾り

岡 将男
イラスト 須田美奈子

「勾玉の首飾り」序文

五世紀の古備を描こうと初めて考えたのは昭和四十九年の事だった。日本書紀の吉備の反乱伝承といわれるもの、それは雄略天皇の時代に前津屋、田狭、稚媛といった人々が繰り返し反乱を起こし、破れてゆく話である。

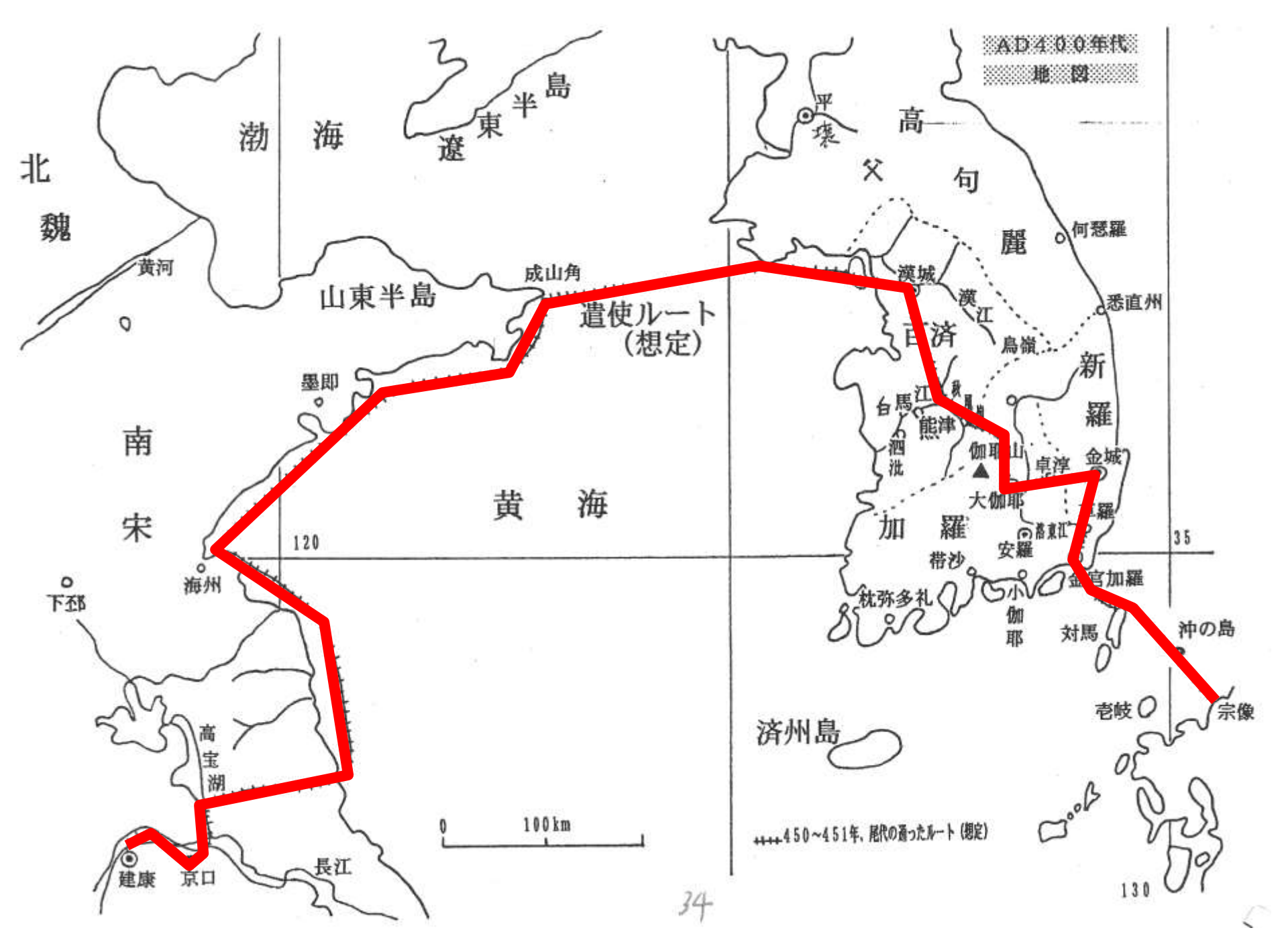
私はこの反乱伝承を、当時の東アジアの政治経済の面から考え直してみようと試みた。幸い、十六年の間の考古学、文献史学の発達はめざましく、私は大胆な試みとして、その全てを西暦絶対年代で表現する事ができた。全体の考え方としては、門脇禎二氏および黒岩重吾氏の著作に大きく影響される所があった。また、漢文をちゃんと読めない私にとって、『全現代語訳日本書紀』（宇治谷孟訳講談社学術文庫）『古事記全訳注』（次田真幸訳講談社学術文庫）及び『三国史記』（金富軾著井上秀雄訳平凡社東洋文庫）の存在は、掛けがえなく、全面的にその訳文を利用させていただいた。なお、天皇の没年については、古事記没年干支を使用した。今後考古学上の新たな発見等があれば、書き直そうと初めから考えており、いわばシュミレーション小説というものになっている。使用した資料は膨大で、しかも四百枚程度にまとめるので、随分と無理をして縮めているが、吉備の五世紀の実態を多少なりとも具体的にイメージしてもらえるのではないかと思う。

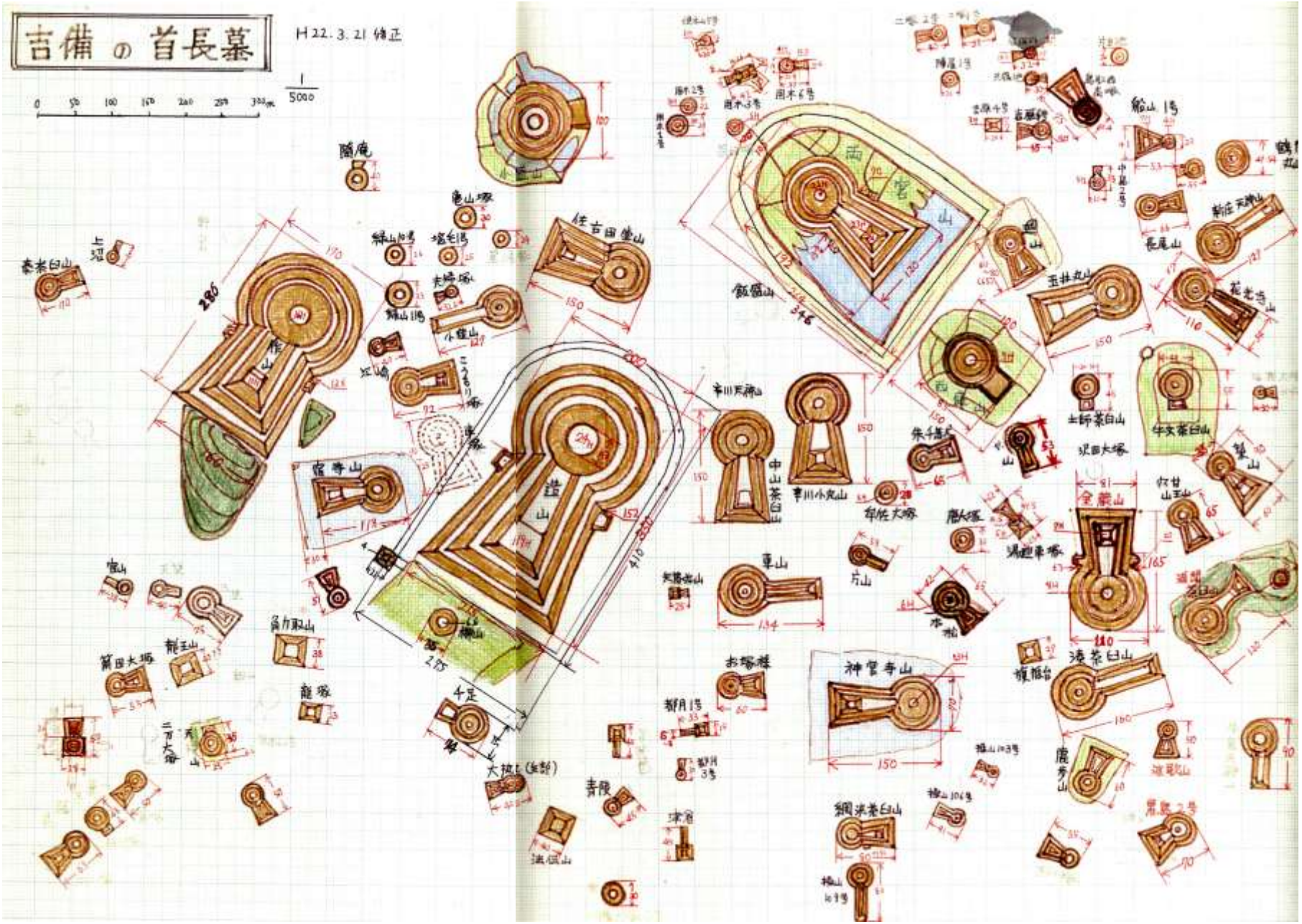
平成四年三月二十五日

1 尾代誕生（プロローグ）

四世紀の後半、日本がまだ倭国と呼ばれていた頃、朝鮮半島の加羅に居た登美田別（応神天皇）は、筑紫に上陸して根拠地を築き、御友別と共にかつてより交易のあった吉備にやってきた。登美田別は吉備で三年間軍備

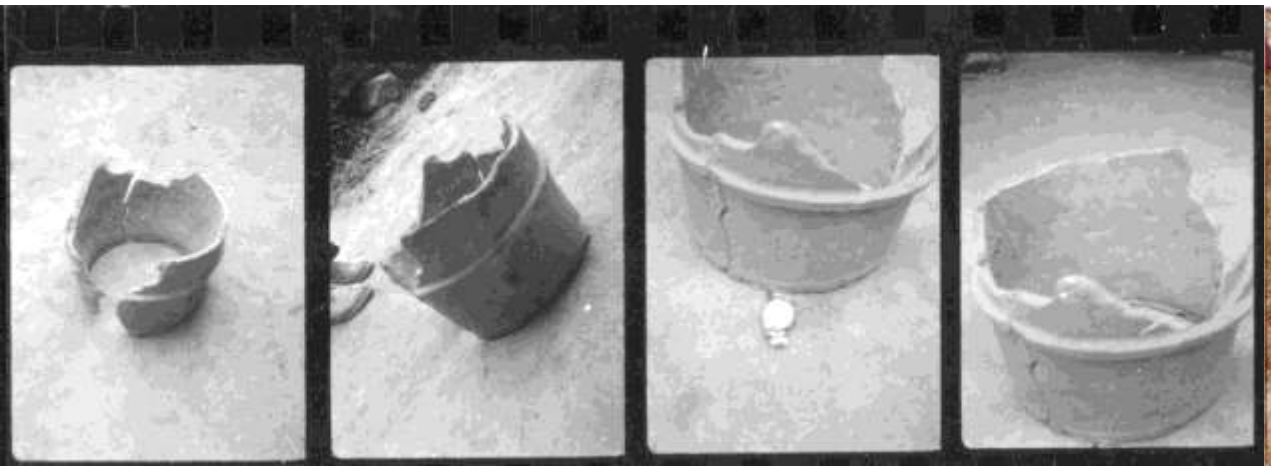
- 勾玉の首飾り
- ●平成2年頃内田百閒文学賞落選作
- ●平成4年から2年間広島の経済誌で連載
- ●山陽新聞に出版を断られる
- ●平成26年吉備邪馬台国東遷説
- ●平成30年書換開始
- 資治通鑑翻訳開始


AD400年代
地図
北魏
渤海
遼東半島
黄河
山東半島
成山角
遣使ルート
(想定)
墨即
南宋
黄海
海州
下邳
高宝湖
建康
京口
長江
120
0
100km
平壌
高句麗
何瑟羅
悉直州
漢城
漢江
百済
鳥嶺
新羅
台馬江
熊津
泗沘
伽耶山
卓淳
金城
大伽耶
加羅
洛東江
安羅
帯沙
金官加羅
枕弥多礼
小伽耶
対馬
沖の島
壱岐
宗像
済州島
35
130
450~451年、尾代の通ったルート(想定)


吉備の首長墓
H22.3.21 修正
1/5000
0 50 100 150 200 250 300m
造山
作山
両宮山
中山
神宮寺山
金蔵山
鯉喰神社
随庵
金山塚
緑山1号
塚本1号
夫婦塚
鯉山11号
小盛山
こうもり塚
江崎
湯迫車塚
宮山
龍王山
鯉喰神社
二万大塚
千足
大崩山(全部)
寺段
法領山
都月1号
都月3号
お宮様
神宮寺山
網浜茶臼山
楯山1号
楯山3号
楯山10号
鹿夫山
遠見山
遠見2号
遠見1号
遠見3号
遠見4号
遠見5号
遠見6号
遠見7号
遠見8号
遠見9号
遠見10号
遠見11号
遠見12号
遠見13号
遠見14号
遠見15号
遠見16号
遠見17号
遠見18号
遠見19号
遠見20号
遠見21号
遠見22号
遠見23号
遠見24号
遠見25号
遠見26号
遠見27号
遠見28号
遠見29号
遠見30号
遠見31号
遠見32号
遠見33号
遠見34号
遠見35号
遠見36号
遠見37号
遠見38号
遠見39号
遠見40号
遠見41号
遠見42号
遠見43号
遠見44号
遠見45号
遠見46号
遠見47号
遠見48号
遠見49号
遠見50号
遠見51号
遠見52号
遠見53号
遠見54号
遠見55号
遠見56号
遠見57号
遠見58号
遠見59号
遠見60号
遠見61号
遠見62号
遠見63号
遠見64号
遠見65号
遠見66号
遠見67号
遠見68号
遠見69号
遠見70号
遠見71号
遠見72号
遠見73号
遠見74号
遠見75号
遠見76号
遠見77号
遠見78号
遠見79号
遠見80号
遠見81号
遠見82号
遠見83号
遠見84号
遠見85号
遠見86号
遠見87号
遠見88号
遠見89号
遠見90号
遠見91号
遠見92号
遠見93号
遠見94号
遠見95号
遠見96号
遠見97号
遠見98号
遠見99号
遠見100号
遠見101号
遠見102号
遠見103号
遠見104号
遠見105号
遠見106号
遠見107号
遠見108号
遠見109号
遠見110号
遠見111号
遠見112号
遠見113号
遠見114号
遠見115号
遠見116号
遠見117号
遠見118号
遠見119号
遠見120号
遠見121号
遠見122号
遠見123号
遠見124号
遠見125号
遠見126号
遠見127号
遠見128号
遠見129号
遠見130号
遠見131号
遠見132号
遠見133号
遠見134号
遠見135号
遠見136号
遠見137号
遠見138号
遠見139号
遠見140号
遠見141号
遠見142号
遠見143号
遠見144号
遠見145号
遠見146号
遠見147号
遠見148号
遠見149号
遠見150号
遠見151号
遠見152号
遠見153号
遠見154号
遠見155号
遠見156号
遠見157号
遠見158号
遠見159号
遠見160号
遠見161号
遠見162号
遠見163号
遠見164号
遠見165号
遠見166号
遠見167号
遠見168号
遠見169号
遠見170号
遠見171号
遠見172号
遠見173号
遠見174号
遠見175号
遠見176号
遠見177号
遠見178号
遠見179号
遠見180号
遠見181号
遠見182号
遠見183号
遠見184号
遠見185号
遠見186号
遠見187号
遠見188号
遠見189号
遠見190号
遠見191号
遠見192号
遠見193号
遠見194号
遠見195号
遠見196号
遠見197号
遠見198号
遠見199号
遠見200号
遠見201号
遠見202号
遠見203号
遠見204号
遠見205号
遠見206号
遠見207号
遠見208号
遠見209号
遠見210号
遠見211号
遠見212号
遠見213号
遠見214号
遠見215号
遠見216号
遠見217号
遠見218号
遠見219号
遠見220号
遠見221号
遠見222号
遠見223号
遠見224号
遠見225号
遠見226号
遠見227号
遠見228号
遠見229号
遠見230号
遠見231号
遠見232号
遠見233号
遠見234号
遠見235号
遠見236号
遠見237号
遠見238号
遠見239号
遠見240号
遠見241号
遠見242号
遠見243号
遠見244号
遠見245号
遠見246号
遠見247号
遠見248号
遠見249号
遠見250号
遠見251号
遠見252号
遠見253号
遠見254号
遠見255号
遠見256号
遠見257号
遠見258号
遠見259号
遠見260号
遠見261号
遠見262号
遠見263号
遠見264号
遠見265号
遠見266号
遠見267号
遠見268号
遠見269号
遠見270号
遠見271号
遠見272号
遠見273号
遠見274号
遠見275号
遠見276号
遠見277号
遠見278号
遠見279号
遠見280号
遠見281号
遠見282号
遠見283号
遠見284号
遠見285号
遠見286号
遠見287号
遠見288号
遠見289号
遠見290号
遠見291号
遠見292号
遠見293号
遠見294号
遠見295号
遠見296号
遠見297号
遠見298号
遠見299号
遠見300号
遠見301号
遠見302号
遠見303号
遠見304号
遠見305号
遠見306号
遠見307号
遠見308号
遠見309号
遠見310号
遠見311号
遠見312号
遠見313号
遠見314号
遠見315号
遠見316号
遠見317号
遠見318号
遠見319号
遠見320号
遠見321号
遠見322号
遠見323号
遠見324号
遠見325号
遠見326号
遠見327号
遠見328号
遠見329号
遠見330号
遠見331号
遠見332号
遠見333号
遠見334号
遠見335号
遠見336号
遠見337号
遠見338号
遠見339号
遠見340号
遠見341号
遠見342号
遠見343号
遠見344号
遠見345号
遠見346号
遠見347号
遠見348号
遠見349号
遠見350号
遠見351号
遠見352号
遠見353号
遠見354号
遠見355号
遠見356号
遠見357号
遠見358号
遠見359号
遠見360号
遠見361号
遠見362号
遠見363号
遠見364号
遠見365号
遠見366号
遠見367号
遠見368号
遠見369号
遠見370号
遠見371号
遠見372号
遠見373号
遠見374号
遠見375号
遠見376号
遠見377号
遠見378号
遠見379号
遠見380号
遠見381号
遠見382号
遠見383号
遠見384号
遠見385号
遠見386号
遠見387号
遠見388号
遠見389号
遠見390号
遠見391号
遠見392号
遠見393号
遠見394号
遠見395号
遠見396号
遠見397号
遠見398号
遠見399号
遠見400号
遠見401号
遠見402号
遠見403号
遠見404号
遠見405号
遠見406号
遠見407号
遠見408号
遠見409号
遠見410号
遠見411号
遠見412号
遠見413号
遠見414号
遠見415号
遠見416号
遠見417号
遠見418号
遠見419号
遠見420号
遠見421号
遠見422号
遠見423号
遠見424号
遠見425号
遠見426号
遠見427号
遠見428号
遠見429号
遠見430号
遠見431号
遠見432号
遠見433号
遠見434号
遠見435号
遠見436号
遠見437号
遠見438号
遠見439号
遠見440号
遠見441号
遠見442号
遠見443号
遠見444号
遠見445号
遠見446号
遠見447号
遠見448号
遠見449号
遠見450号
遠見451号
遠見452号
遠見453号
遠見454号
遠見455号
遠見456号
遠見457号
遠見458号
遠見459号
遠見460号
遠見461号
遠見462号
遠見463号
遠見464号
遠見465号
遠見466号
遠見467号
遠見468号
遠見469号
遠見470号
遠見471号
遠見472号
遠見473号
遠見474号
遠見475号
遠見476号
遠見477号
遠見478号
遠見479号
遠見480号
遠見481号
遠見482号
遠見483号
遠見484号
遠見485号
遠見486号
遠見487号
遠見488号
遠見489号
遠見490号
遠見491号
遠見492号
遠見493号
遠見494号
遠見495号
遠見496号
遠見497号
遠見498号
遠見499号
遠見500号
遠見501号
遠見502号
遠見503号
遠見504号
遠見505号
遠見506号
遠見507号
遠見508号
遠見509号
遠見510号
遠見511号
遠見512号
遠見513号
遠見514号
遠見515号
遠見516号
遠見517号
遠見518号
遠見519号
遠見520号
遠見521号
遠見522号
遠見523号
遠見524号
遠見525号
遠見526号
遠見527号
遠見528号
遠見529号
遠見530号
遠見531号
遠見532号
遠見533号
遠見534号
遠見535号
遠見536号
遠見537号
遠見538号
遠見539号
遠見540号
遠見541号
遠見542号
遠見543号
遠見544号
遠見545号
遠見546号
遠見547号
遠見548号
遠見549号
遠見550号
遠見551号
遠見552号
遠見553号
遠見554号
遠見555号
遠見556号
遠見557号
遠見558号
遠見559号
遠見560号
遠見561号
遠見562号
遠見563号
遠見564号
遠見565号
遠見566号
遠見567号
遠見568号
遠見569号
遠見570号
遠見571号
遠見572号
遠見573号
遠見574号
遠見575号
遠見576号
遠見577号
遠見578号
遠見579号
遠見580号
遠見581号
遠見582号
遠見583号
遠見584号
遠見585号
遠見586号
遠見587号
遠見588号
遠見589号
遠見590号
遠見591号
遠見592号
遠見593号
遠見594号
遠見595号
遠見596号
遠見597号
遠見598号
遠見599号
遠見600号
遠見601号
遠見602号
遠見603号
遠見604号
遠見605号
遠見606号
遠見607号
遠見608号
遠見609号
遠見610号
遠見611号
遠見612号
遠見613号
遠見614号
遠見615号
遠見616号
遠見617号
遠見618号
遠見619号
遠見620号
遠見621号
遠見622号
遠見623号
遠見624号
遠見625号
遠見626号
遠見627号
遠見628号
遠見629号
遠見630号
遠見631号
遠見632号
遠見633号
遠見634号
遠見635号
遠見636号
遠見637号
遠見638号
遠見639号
遠見640号
遠見641号
遠見642号
遠見643号
遠見644号
遠見645号
遠見646号
遠見647号
遠見648号
遠見649号
遠見650号
遠見651号
遠見652号
遠見653号
遠見654号
遠見655号
遠見656号
遠見657号
遠見658号
遠見659号
遠見660号
遠見661号
遠見662号
遠見663号
遠見664号
遠見665号
遠見666号
遠見667号
遠見668号
遠見669号
遠見670号
遠見671号
遠見672号
遠見673号
遠見674号
遠見675号
遠見676号
遠見677号
遠見678号
遠見679号
遠見680号
遠見681号
遠見682号
遠見683号
遠見684号
遠見685号
遠見686号
遠見687号
遠見688号
遠見689号
遠見690号
遠見691号
遠見692号
遠見693号
遠見694号
遠見695号
遠見696号
遠見697号
遠見698号
遠見699号
遠見700号
遠見701号
遠見702号
遠見703号
遠見704号
遠見705号
遠見706号
遠見707号
遠見708号
遠見709号
遠見710号
遠見711号
遠見712号
遠見713号
遠見714号
遠見715号
遠見716号
遠見717号
遠見718号
遠見719号
遠見720号
遠見721号
遠見722号
遠見723号
遠見724号
遠見725号
遠見726号
遠見727号
遠見728号
遠見729号
遠見730号
遠見731号
遠見732号
遠見733号
遠見734号
遠見735号
遠見736号
遠見737号
遠見738号
遠見739号
遠見740号
遠見741号
遠見742号
遠見743号
遠見744号
遠見745号
遠見746号
遠見747号
遠見748号
遠見749号
遠見750号
遠見751号
遠見752号
遠見753号
遠見754号
遠見755号
遠見756号
遠見757号
遠見758号
遠見759号
遠見760号
遠見761号
遠見762号
遠見763号
遠見764号
遠見765号
遠見766号
遠見767号
遠見768号
遠見769号
遠見770号
遠見771号
遠見772号
遠見773号
遠見774号
遠見775号
遠見776号
遠見777号
遠見778号
遠見779号
遠見780号
遠見781号
遠見782号
遠見783号
遠見784号
遠見785号
遠見786号
遠見787号
遠見788号
遠見789号
遠見790号
遠見791号
遠見792号
遠見793号
遠見794号
遠見795号
遠見796号
遠見797号
遠見798号
遠見799号
遠見800号
遠見801号
遠見802号
遠見803号
遠見804号
遠見805号
遠見806号
遠見807号
遠見808号
遠見809号
遠見810号
遠見811号
遠見812号
遠見813号
遠見814号
遠見815号
遠見816号
遠見817号
遠見818号
遠見819号
遠見820号
遠見821号
遠見822号
遠見823号
遠見824号
遠見825号
遠見826号
遠見827号
遠見828号
遠見829号
遠見830号
遠見831号
遠見832号
遠見833号
遠見834号
遠見835号
遠見836号
遠見837号
遠見838号
遠見839号
遠見840号
遠見841号
遠見842号
遠見843号
遠見844号
遠見845号
遠見846号
遠見847号
遠見848号
遠見849号
遠見850号
遠見851号
遠見852号
遠見853号
遠見854号
遠見855号
遠見856号
遠見857号
遠見858号
遠見859号
遠見860号
遠見861号
遠見862号
遠見863号
遠見864号
遠見865号
遠見866号
遠見867号
遠見868号
遠見869号
遠見870号
遠見871号
遠見872号
遠見873号
遠見874号
遠見875号
遠見876号
遠見877号
遠見878号
遠見879号
遠見880号
遠見881号
遠見882号
遠見883号
遠見884号
遠見885号
遠見886号
遠見887号
遠見888号
遠見889号
遠見890号
遠見891号
遠見892号
遠見893号
遠見894号
遠見895号
遠見896号
遠見897号
遠見898号
遠見899号
遠見900号
遠見901号
遠見902号
遠見903号
遠見904号
遠見905号
遠見906号
遠見907号
遠見908号
遠見909号
遠見910号
遠見911号
遠見912号
遠見913号
遠見914号
遠見915号
遠見916号
遠見917号
遠見918号
遠見919号
遠見920号
遠見921号
遠見922号
遠見923号
遠見924号
遠見925号
遠見926号
遠見927号
遠見928号
遠見929号
遠見930号
遠見931号
遠見932号
遠見933号
遠見934号
遠見935号
遠見936号
遠見937号
遠見938号
遠見939号
遠見940号
遠見941号
遠見942号
遠見943号
遠見944号
遠見945号
遠見946号
遠見947号
遠見948号
遠見949号
遠見950号
遠見951号
遠見952号
遠見953号
遠見954号
遠見955号
遠見956号
遠見957号
遠見958号
遠見959号
遠見960号
遠見961号
遠見962号
遠見963号
遠見964号
遠見965号
遠見966号
遠見967号
遠見968号
遠見969号
遠見970号
遠見971号
遠見972号
遠見973号
遠見974号
遠見975号
遠見976号
遠見977号
遠見978号
遠見979号
遠見980号
遠見981号
遠見982号
遠見983号
遠見984号
遠見985号
遠見986号
遠見987号
遠見988号
遠見989号
遠見990号
遠見991号
遠見992号
遠見993号
遠見994号
遠見995号
遠見996号
遠見997号
遠見998号
遠見999号
遠見1000号

勾玉の首飾り以来のテーマ

- 造山古墳は大王墓ではないか
- 雄略天皇時代の吉備反乱伝承の意味の追求
- 雄略天皇は百済の王族・昆支王ではないか。小林惠子の著作の様々に対して反論がない
- 吉備の古墳・吉備路を少しは世界に誇る観光地にできないか
- 仏教の知識は450年には倭国に到来していた



卑弥呼と諸葛亮は三国志時代･戦乱

175年位卑弥呼生

↓　　181年　諸葛亮生

↓　　↓　　184年黄巾の乱

↓　　↓　　200年官渡の戦

↓　　↓　　208年赤壁の戦

↓　　↓　　215年張魯降る

↓　　234年 諸葛亮死

↓　　235年位臺與生

238年　卑弥呼魏に遣使　↓　　238年公孫氏滅亡

247年　卑弥呼死　　臺與立つ

この間邪馬台国東遷

266年　臺與晋に遣使　265年晋成立

三国志時代から将軍の時代1650年

- 漢の崩壊は184年の黄巾の乱がきっかけ
- 三国の英雄から将軍の時代が到来する
- 邪馬台国豊能時代は将軍の時代の始まり
- 高句麗好太王と応神天皇、好太王碑文
- 南北朝時代に「開府儀同三司都督・・大将軍」
- 皇帝にならないまでも、幕府を開く(→江戸時代)
- 南朝宋から将軍号を貰い、地域の支配権を追認
- 478年倭王・武の上表文
- 日本列島では将軍の時代が続く、古墳時代
- 672年の壬申の乱以後、日本国成立・独自文化

400年前後、後燕・後秦・北涼・西晋高句麗

好太王の碑文

〔図２　酒匂本のはり合わせ〕
（東京国立博物館所蔵）

高句麗国内城

山城子山城
（丸都山城）
禹山
禹山下古墳群
亀甲塚
美人塚
山城下古墳群
禹山下41号墳
通溝12号墳
散速花塚
通溝四神塚
三室塚
太王陵
万宝汀古墳群
五盔墳5号墓
五盔墳4号墓
集安駅
国内城
七星山
七星山古墳群
満浦市
麻線溝古墳群
西大塚
千秋塚
2 国内城付近の遺跡
古墳群密集地
北朝鮮・中国国境
城郭
石碑
古墳

高句麗の広範な外交
西域との関連が大きい

「資治通鑑」翻訳PJ・古墳時代対応

- 司馬遷「史記」以来、「魏志」「宋書」など本紀と列伝の紀伝体

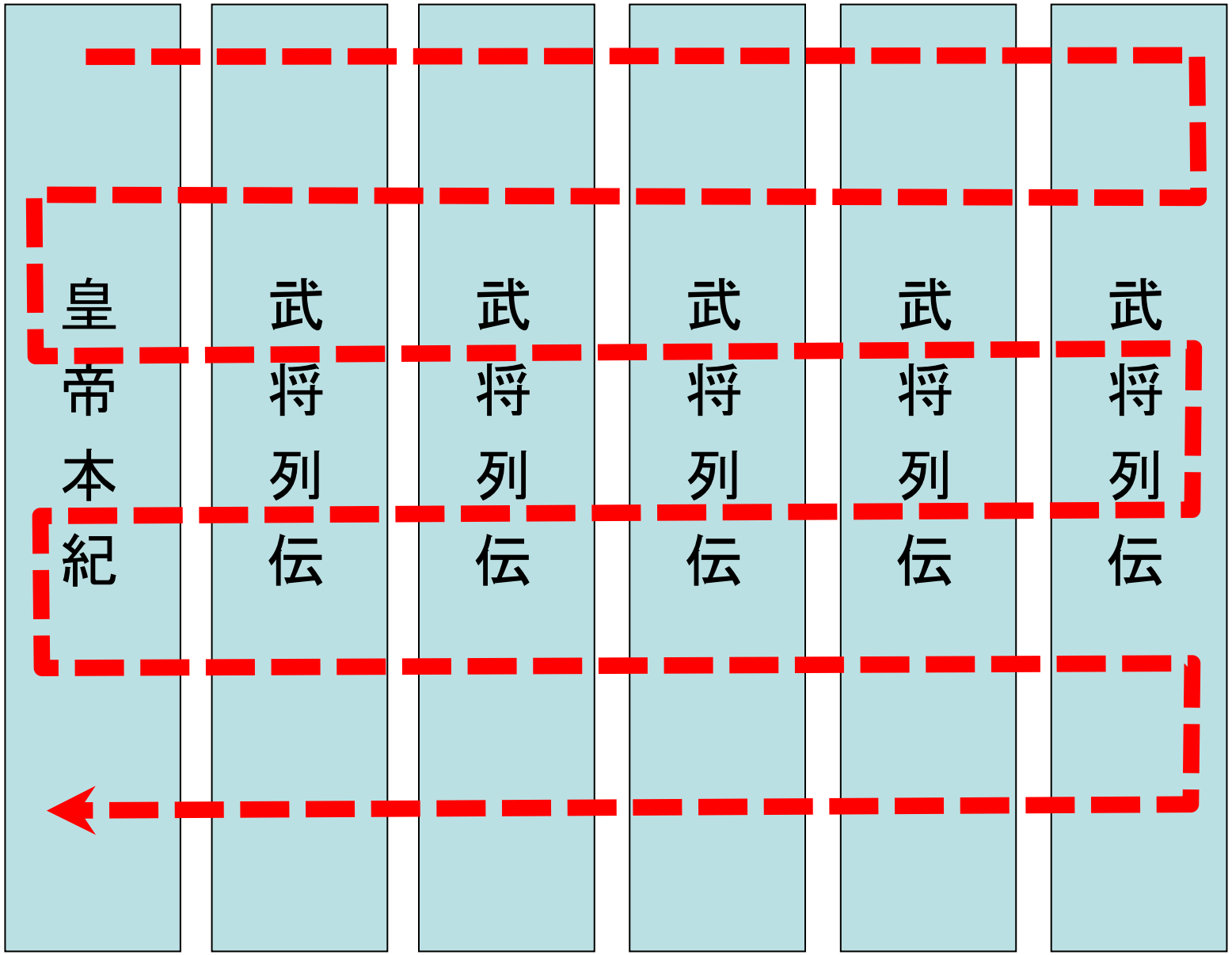
- 皇帝の「本紀」と諸侯・武将の英雄伝である「列伝」で構成される。通史把握、英雄伝は誇張・矛盾。
- 「資治通鑑」は編年体で、通史把握が容易

  特に倭の五王時代の「宋書」は専門家が監修

  1932年に翻訳・国会図書館・入手不能

- 「日本書紀」の基本的には編年体。
- 高麗の『三国史記』1145年に金富軾が撰したが、これも三国時代（新羅・高句麗・百済）から統一新羅末期までを紀伝体で。「資治通鑑」を参考。
- 古墳時代の把握には、前燕・後燕の慕容氏と北燕の馮氏の東アジア諸国への影響をもっと把握するべき。小林恵子の「興亡古代史」など諸著作の検証が必要
- 「魏志倭人伝」はたった2000文字。三国志の「魏書」の「東夷伝」の「倭人条」
- 今回の資治通鑑は、現在27巻284186文字→456107文字。膨大なデータが入手不能
- 古代史・考古学の学生はまず読んでおくべき

紀伝体と編年体



「表示方法」

1.原典としては中国語版のWikipediaからペースとして使用。ただし原典では、テキスト化する時に様々混乱。「皇后」を「後」と表示など、日本の一般表示にも配慮

2.頭に宋は■、北魏は●、燕は▲、夏は★、涼は★★、別に年表もそれぞれに作成する場合も之に同じ対応

3.できる限り原文をそのまま読み下した。翻訳終了は青色表示。不明部分は黒色。漢字はネットの辞書、検索による中国語の辞書を使用、ネットで様々検索

4.一月から十二月までは赤字で表示。暦は元嘉暦を基本。宋の何承天が提案し445年正月から採用し、数年内には倭国に伝えられていて、允恭天皇・倭王済の記述から日本書紀にも採用。閏月の設定も元嘉暦とは違う暦の可能性あり

5.段落毎に簡単な表題を付けてみた。あとで検索するときに便利なような要約にした

6. 1932年に刊行された資治通鑑翻訳は、「続国訳漢文大成」として国会図書館にあり、画像が公開されている。文字や解釈に違いがある場合、（＋）のマークを付けて、括弧内に表示。

【參合陂の戦い】●[燕軍渡河は暴風に阻まれる]八月，魏王の珪は兵を河南に治める。九月，進軍して河に臨む。燕の太子の寶は列兵を列して將に濟らんとするも，暴風起こり，其の船數十艘は漂いて南岸に+泊（-泊×）す。魏は其の甲士三百餘人を獲り，皆な釋して而して之を遣る。

▲[魏は慕容垂の病気を察知して利用]寶之中山を發する也，燕主の垂は已に疾有り，既にして五原に至り，珪は人をして中山之路に邀(むか)え使め，其の使者を伺い，盡く之を執り，寶等は數か月垂の起居を聞かず，珪は執る所の使者をして河に臨みて之を告げ使めて曰く:

「若し（+なんじの意味とする）父已に死せば，何の早く歸らざるや！」

寶等は憂え恐れ，士卒は駭動す。

●[北魏の万全の迎撃態勢を慕容宝は軽視]珪は陳留公の虔をして五萬騎を將して河東に屯ぜ使め，東平公の儀をして十萬騎を將して河北に屯ぜしめ，略陽公の遵をして七萬騎を將して燕軍之南を塞がしむ。遵は，壽烏之子也。(6-315p)秦の興は楊佛嵩を遣わして兵を將いて魏を救わしむ。燕の術士の靳安は太子の寶に言って曰く:

「天の時は不利，燕は必ず大敗す，速かに去りて免かる可し。」

寶は聽かず。安は退き，人に告げて曰く:

「吾が輩は皆な當に屍を草野に棄て，歸るを得ず矣！」

●▲[燕軍は動揺し内乱、斥候出さず撤退して暴風]燕、魏は相い持ちて旬を積み，趙王の麟の將の慕輿嵩等は垂を以て實に死せりと為し，亂を作り，麟を奉じて主と為さんと謀る。事は洩れ，嵩等は皆な死し，寶、麟等は內に自ら疑い，冬，十月，辛未（25日），船を燒いて夜遁げる。時に河冰は未だ結ばず，寶は魏兵を以て必ず渡る能わずと，斥候を設けず。十一月，己卯（4日），暴風にして，冰は合す。魏王の珪は兵を引いて河を濟り，輜重を留め，精鋭二萬餘騎を選びて急に之を追う。

▲[燕軍は參合陂に宿営し油断す]燕軍は參合陂に至り，大風有り，黑氣は堤の如く，軍の後より來たり，軍上に臨み覆う。沙門の支曇猛は寶に言って曰く:

「風氣は暴迅なり，魏兵の將に之に至らんとする候，宜しく兵を遣わして之を御(+禦)ぐべし。」

寶は魏軍を去るに已に遠きを以て，笑いて應えず。曇猛は固く請いて已まず，麟は怒りて曰く:

「殿下の神武を以て，師徒之盛んにして，以て沙漠を横行するに足らん，索虜は何の敢えて遠く來たるや！而して曇猛の妄言は眾(+衆)を驚かす，當に斬りて以て徇(とな)うべし！」

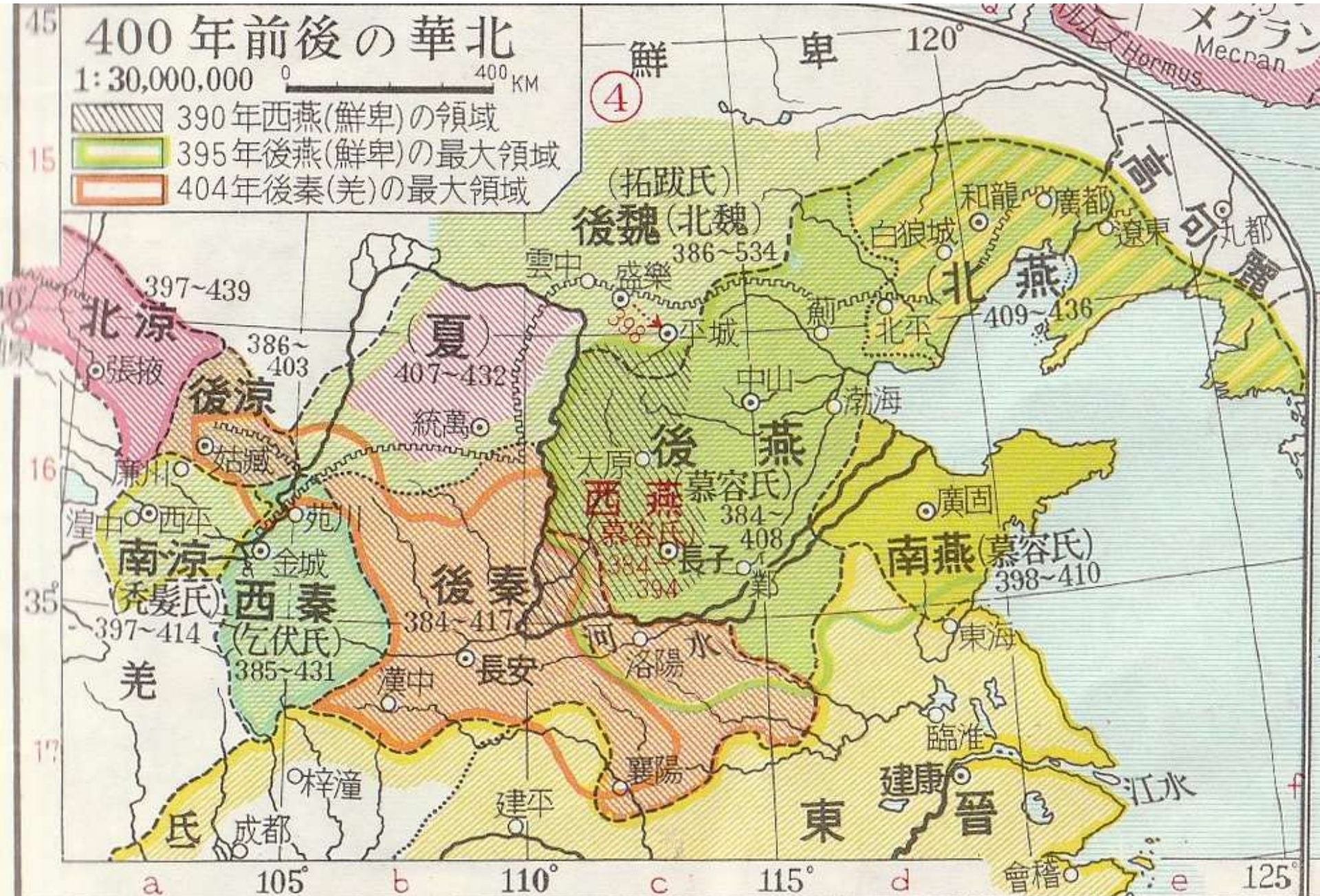
曇猛は泣いて曰く:

「苻氏は百萬之師を以て，淮南に敗れ，正に眾(+衆)を恃んで敵を輕んじ，天道を信ぜざる由しの故也！」

司徒の德は寶に勸めて曇猛の言に從わしめ，寶は乃ち麟を遣わして騎三萬を帥いて軍の後に居らしめて以て非常に備える。麟は曇猛を以て赤(+為)妄とし，騎を縱(はな)ちて遊獵し，肯えて備えを設けず。寶は騎を遣わして還りて魏兵を詗(うかが)わしめ，騎は+行(-和×)くこと十餘里，即ち鞍を解きて寢ぬ。

●[魏軍は參合陂の奇襲大成功]魏軍は晨夜兼行，乙酉(10日)，暮，參合陂の西に至り。燕軍は陂の東に在り，蟠羊山(山西省雁門道陽高県)の南の水上に營す。魏王の珪は夜諸將を部分し，燕軍を掩覆し，士卒は枚(ばい)を銜(ふく)み馬口を束ね潛かに進む。丙戌(11日)，日出で，魏軍は山に登り，下に燕の營を臨む。燕軍は將に東に引かんとし，顧みて之を見之，士卒は大いに驚いて擾亂す。珪は兵を縱ちて之を擊ち，燕の兵は走りて水に赴き，人馬は相い騰(のぼ)りて，躡壓(とうあつ)し溺死者は以て萬數。略陽公の遵は兵を以て其の前を邀え，燕の兵は四五萬人，一時に仗を放ちて手を斂(おさ)めて禽に就き，其の遺迸(いほう)して去る者は數千人に過ぎず，太子の寶等は皆な單騎にて僅かに免る。燕の右僕+射(-無し)陳留の悼王の紹を殺し，魯陽王の倭奴、桂林王の道成、濟陰公の尹國等文武將吏數千人を生け禽りにし，兵甲糧貨は以て巨萬を計る。道成は，垂之弟の子也。

AD400年前後の華北、五胡の侵入



383年淝水の戦い
慕容垂の後燕建国
高句麗の南下
百済の南遷
百済の加耶侵略
倭国の前方後円墳

新羅慶州の
天馬塚の王冠
北燕などの
慕容氏の系統

雄略天皇時代
押木珠蔓
翡翠は倭国製

慶州古墳群

資治通鑑

- 「資治通鑑とは」　Wikipediaから引用
- 中国の北宋の政治家・文人である司馬光が、1065年（治平2年）の英宗の詔により編纂した、編年体の歴史書。1084年（元豊7年）の成立。全294巻。

- 収録範囲は、紀元前403年（周の威烈王23年）の韓・魏・趙の自立による戦国時代の始まりから、959年（後周世宗の顕徳6年）の北宋建国の前年に至るまでの1362年間としている。
- 最も難関とされた南北朝時代は当時の史学研究の第一人者劉恕が担当。劉恕の史料収集は余りに完璧で、司馬光は自分では何もしなくてもよかったと言わしめたほど。

中国　資治通鑑全訳　古墳時代対応情報　　司馬光
https://shijituganok.memo.wiki/

「宋書」にはいわゆる「倭の五王」の朝貢記事が載っているが、

「本紀」部分や皇帝の日記である「起居注」にあるらしい。

しかし「資治通鑑」ではそこまでは載っていない。

一方「宋書倭国伝」には倭の五王の朝貢記事がある。

この時代に宋国内がどんな状況にあったかは、「資治通鑑」の編年体記述が参考になる。倭の五王が宋から貰おうとした将軍号なども、頻繁に出てくるから、どんな意味があるのかも想像が付く。

また「日本書紀」の記述にはストレートに倭の五王は出てこない。

呉との通行は雄略天皇時代には出てくる。この3つをまずは簡単に見比べてみたい。なお

「日本書紀」では457年を雄略天皇元年に当てているが、

実際には462年に安康天皇が暗殺されているから

元年は463年であり、この年に吉備の反乱伝承が記載されている。

■は「宋書倭国伝」、●は「資治通鑑」、★は「日本書紀」、▲「三国史記」、古墳など他資料

■421年・「倭国は高驪の東南、大海の中にあり、世々貢職を修む。高祖の永初二年、詔していわく、『倭讃、万里貢を修む。遠誠宜しく甄すべく、除授を賜うべし』と。」

●421年（119巻）・前晋王を誅殺したなど、劉裕の権威は大きい。

▲この時期造山古墳が築かれ、吉備の古墳が最大になった時期である。

■425年・「太祖の元嘉二年、讃また司馬曹達を遣わして表を奉り方物を献ず。」

●425年（120巻）・前年2代目皇帝が廃され、太祖が立って政権安定

南北朝時代
AD450年
南朝宋建国
倭の五王
巨大古墳時代

朝鮮半島と倭国の交易路

■438年・「讃死して弟珍立つ。使いを遣わして貢献し、自ら使持節都督倭・百済・新羅・任那・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大将軍倭国王と称し、表して除正せられんことを求む。

詔して安東将軍倭国王に除す。珍また倭隋等十三人を平西・征虜・冠軍・輔国将軍の号に除正せんことを求む。詔して並びに聴す。」

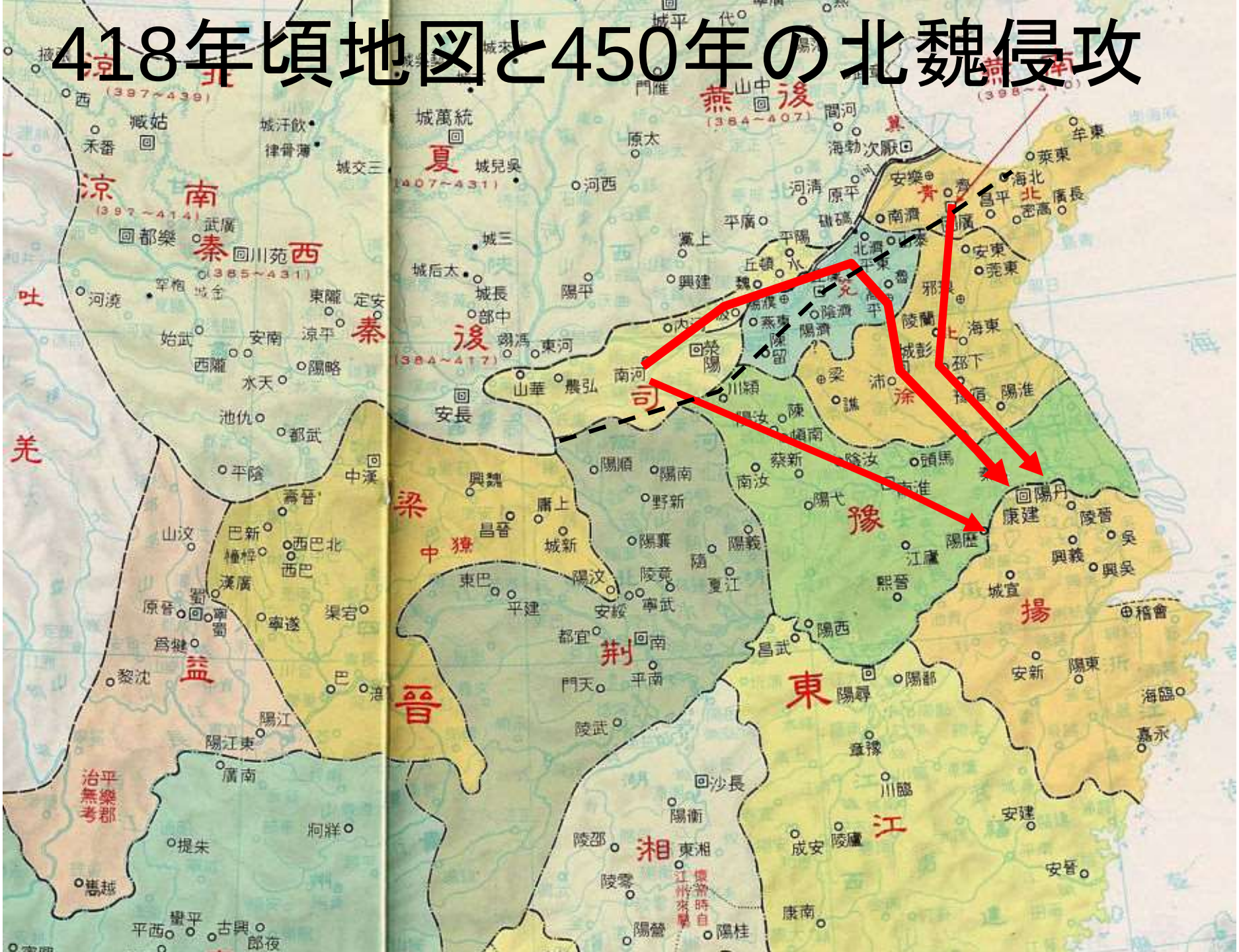
●438年（123巻）・この年燕王の馮弘は高句麗に逃亡し、宋に逃亡を謀るも、高句麗長寿王に誅殺された。

この頃高祖の善政・文芸復興は「元嘉の治」と呼ばれる。

■443年・「二十年、倭国王済、使いを遣わして奉献す。また以て安東将軍倭国王となす。」

●443年（124巻）・この年北魏は柔然や仇地との抗争に忙しく、宋は全く平穏。

418年頃地図と450年の北魏侵攻



■451年7月・「二十八年、使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事を加ふ。安東将軍は故の如し。ならびに上る所の二十三人を軍郡に除す。」

●451年（126巻）・前年北魏への侵攻するも、反抗され、年末にかけて建康対岸まで北魏に攻め込まれて、正月の朝礼も行えないほどの大混乱に陥る。そこに来た倭国朝貢使を厚遇した。

▲この使者団には当然吉備の代表もいたはずだ。作山古墳の時期である。

★457年・日本書紀雄略元年とするが、おかしい

●457年（128年）・世祖孝武帝元年この年百済は宋に朝貢し、鎮東大将軍に任ぜられる。同年百済は扶余として北魏に朝貢したが、これは北燕の流れの馮皇后に対する祝賀か。この百済の動きと百済にごく親しい雄略の動向は注目するべき。当時の倭国は允恭の存在感が薄い。

雄略天皇の出自?

- 即位時に八釣白彦皇子・坂合黒彦皇子を惨殺、眉輪王と葛城圜大臣を誅殺、市邊押磐皇子をだまし討ちと一族惨殺の上で即位
- 百済との異様なほどの関係、475年百済滅亡後、昆支王の子の東城王を頭を撫でて百済王に送り出す。まるで我が子のように。昆支王=雄略?
- 重用したのは、史部身狭村主青・檜隈民使博徳らの渡来人たち
- 450年百済は馮野夫を南朝・宋に派遣。438年に滅んだ「北燕」の王族で、百済に亡命か。北燕は「天王」を称し、長谷に都、初瀬に繋がるか。馮野夫=昆支王?
- 前燕・後燕の慕容氏や句麗好太王の安氏などの陰も感じられる

雄略5年461年

夏四月、百濟加須利君蓋鹵王也、飛聞池津媛之所燔殺適稽女郎也而籌議曰

「昔貢女人爲采女而既無禮、失我國名。自今以後、不合貢女。」

乃告其弟軍君崑支君也曰

「汝宜往日本、以事天皇。」

軍君對曰

「上君之命、不可奉違。願賜君婦而後奉遣。」

加須利君、則以孕婦嫁與軍君曰

「我之孕婦、既當産月。若於路産、冀載一船、隨至何處、速令送國。」遂與辭訣、奉遣於朝。

六月丙戌朔、孕婦果如加須利君言、於筑紫各羅嶋産兒、仍名此兒曰嶋君。於是軍君、卽以一船送嶋君於國、是爲武寧王。百濟人、呼此嶋曰主嶋也。秋七月、軍君入京、既而有五子。百濟新撰云

「辛丑年、蓋鹵王、遣弟昆支君向大倭侍天王、以脩兄王之好也。」

★460年・1月允恭は卒し、2月の葬儀に新羅使者が来て「うねめはや」事件起こる。皇位継承問題があり、12月穴穂皇子が即位、安康。即日宋に使者を派遣したようだが、宋書では無視されている。

●460年（129巻）・この年、宋は比較的平穏。前年459年に高句麗長寿王に開府儀同三司を認める

■462年・「済死す。世子興、使を遣わして貢献す。世祖の大明六年、詔して曰く、『倭王世子興、奕世戴ち忠、藩を外海に作し、化を稟け境を寧んじ、恭しく貢職を修め、新たに辺業を嗣ぐ。宜しく爵号を授くべく、安東将軍倭国王とすべし』と。」

★462年・前後して安康暗殺、後継争い激化の後、雄略天皇即位。

■462年・「興死して弟武立ち、自ら使持節都督倭・百済・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国諸軍事、安東大将軍倭国王と称す。」（この部分は次の武の上表文の前段）

日本書紀･雄略天皇8年･464年?

八年春二月、遣身狹村主青･檜隈民使博德、使於吳國。

自天皇卽位至于是歲、新羅國背誕、苞苴不入於今八年、而大懼中國之心、脩好於高麗。

由是、高麗王、遣精兵一百人守新羅。

有頃、高麗軍士一人、取假歸國、時以新羅人爲典馬典馬、此云于麻柯毗而顧謂之曰

「汝國爲吾國所破、非久矣。」

一本云「汝國果成吾士、非久矣。」其典馬、聞之、陽患其腹退而在後、遂逃入國、說其所語。

日本書紀･雄略天皇10年･466年?

十年秋九月乙酉朔戊子、身狭村主青等、將吳所獻二鵝、到於筑紫。

是鵝、爲水間君犬所囓死。

別本云「是鵝、爲筑紫嶺縣主泥麻呂犬所囓死。」

由是、水間君、恐怖憂愁、不能自默、獻鴻十隻與養鳥人、請以贖罪。天皇許焉。

冬十月乙卯朔辛酉、以水間君所獻養鳥人等、安置於輕村･磐余村二所。

外交記事なのに、持って帰った鵞鳥を食われたとかなんとか。

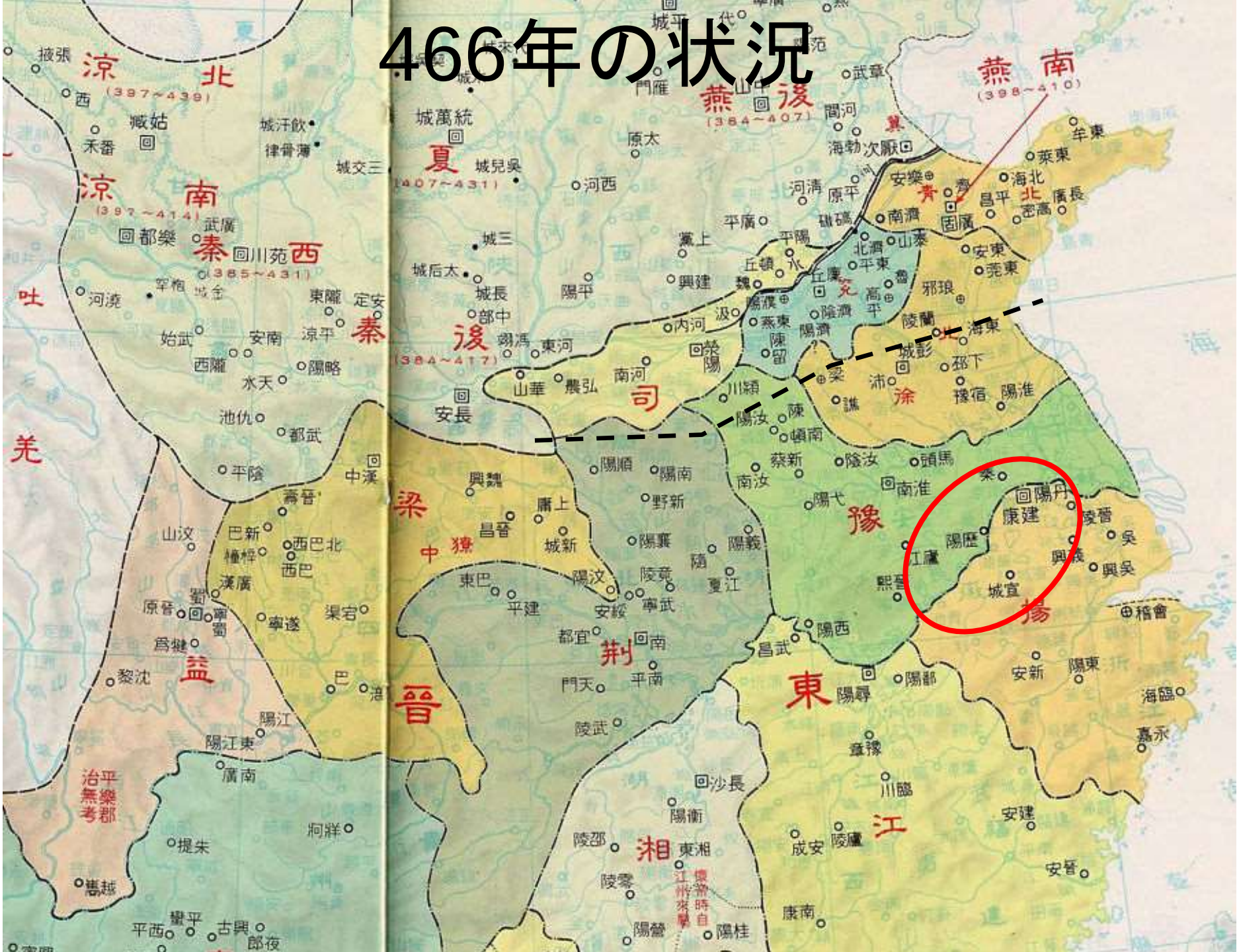
★463年・雄略7年吉備下道前津屋誅殺、下道田狭の稚媛を奪い、田狭は百済に派遣されるが新羅に入って反す。

★464年・「雄略8年春2月身狭村主青・桧隈民使博徳を呉国に遣わした。」この年まで即位以来8年新羅が朝貢しないので、新羅を攻めた。任那王が膳臣斑鳩・吉備臣小梨・難波吉士赤目子らを新羅に送り、高句麗を討つ。呉国へも半島情勢の緊迫で渡航は困難なはず。

★465年・雄略9年3月新羅征伐に紀小弓宿禰・蘇我韓子宿禰・大伴談連・小鹿火宿禰らを送り、小弓には吉備上道大海媛を同行させる。新羅で小弓は敗死、これを受け紀大磐宿禰が新羅に行き、蘇我韓子宿禰を誅殺。大海媛は帰国し淡輪に古墳を築く。

●465年（130巻）・宋の廃帝幼暴、8月戴法興・奚顯度・劉義恭・柳元景・顔帥伯の誅殺、山陰公主奔放。9月徐州刺史義陽王の昶の魏亡命。10月寧朔將軍の何邁反乱鎮圧。11月沈慶之閉門と誅殺。王族虐待と晉安王子勳挙兵。竹林堂廃帝誅殺。12月湘東王即位、子勳再挙兵。とこの年の後半は内乱状態にに突入していく非常に不安定な状況に陥る。

466年の状況



涼北
(397~439)
涼南
(397~414)
秦西
(385~431)
秦
後秦
(384~417)
夏
(407~431)
後燕
(384~407)
燕南
(398~410)
北燕
吐谷渾
羌
梁
中
獠
晉
益
荊
司
豫
徐
揚
東
江
湘
治平
無樂郡
考

★466年・「雄略10年秋9月4日身狭村主青等が、呉が献じた鵞鳥二羽を持って筑紫に行った。この時鵞鳥は水間君の犬に食われて死んだ。水間君は憂い恐れて鴻（ひしくい、大鳥）十羽と養鳥人を献じて罪をあがなうことを願い、天皇は許した。」

●466年（131巻）・1月鄧琬は尋陽で湘東王子勳を即位させる。薛安都味方し朝廷はわずかに2郡を支配に追い込まれる。蔡興宗が緩和策を取り、殷孝祖の入朝で情勢は逆転。

2月蕭道成ら進攻で東軍崩壊し殷孝祖が敗死。

3月沈攸之は赭圻の補給戦で占領。

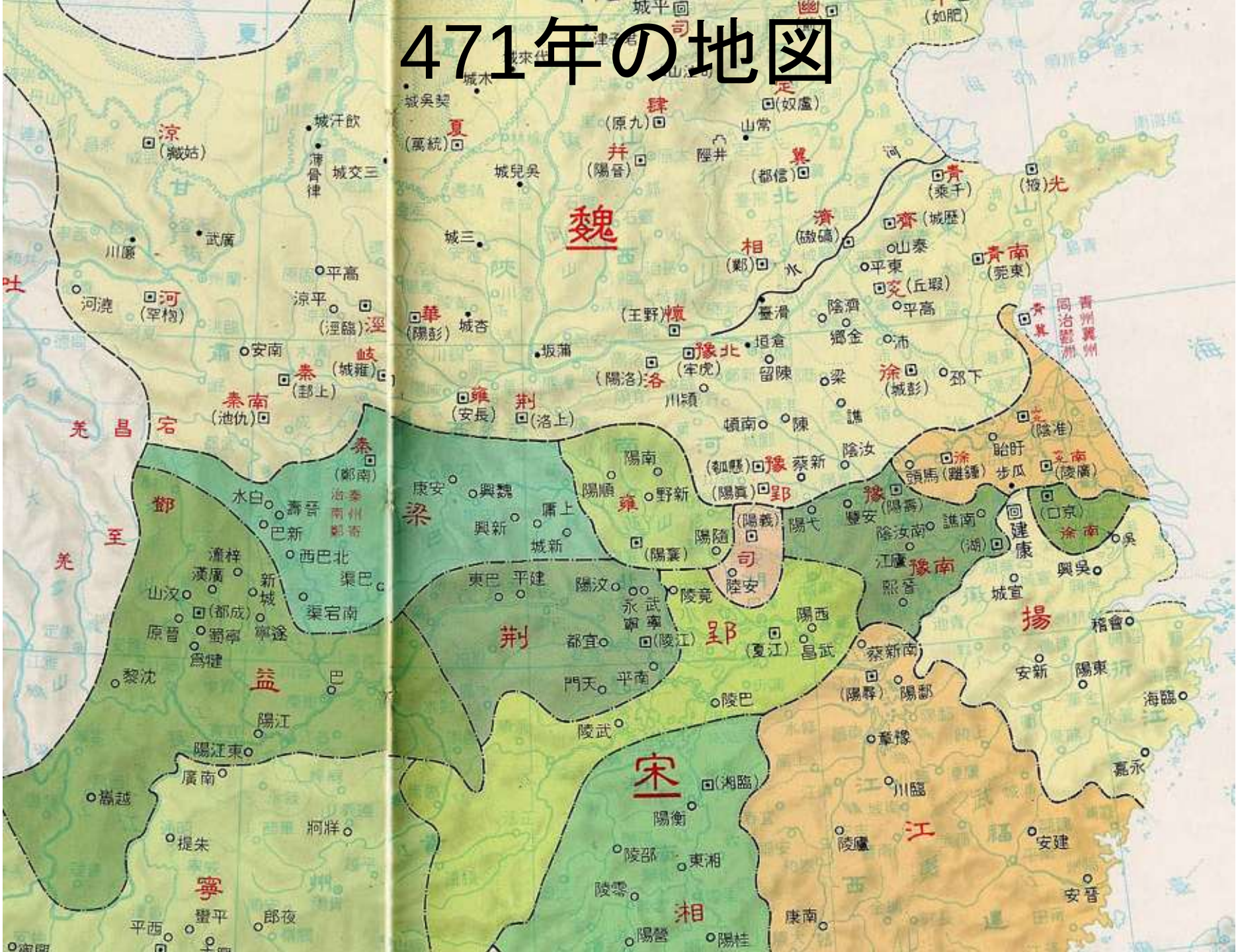
7月張興世の建議で濃湖の水上戦。

8月劉胡・袁顗の逃亡、鄧琬の死と張悦の降伏。沈攸之は子勳を斬る。劉胡は逃亡し死して一連の騒乱は終了。

10月世祖の子皆殺し。薛安都らが魏に降り、河東公。

12月劉勉の壽陽包囲と殷琰の投降。

★丸々1年はほぼ内乱状態にあり、とても外国の使節が首都に到達できる状況になく、雄略の使者は、どちらに付くかと困惑し、すごすごと引き上げてきたというのが真相だろう。


471年の地図
魏
宋
涼
(臧姑)
城汗飲
薄骨律
城交三
武廣
川原
平高
河
(軍勃)
涼平
(渾臨)涇
安南
岐
(城雍)
秦
(郡上)
秦南
(池仇)
羌
昌
宕
吐
河澨
華
(陽彭)
城杏
城三
城吳楚
城木
城來牛
城平
(如肥)
夏
(萬統)
城兒吳
并
(陽晉)
隰井
(原九)
山常
(奴盧)
冀
(都信)
青
(乘千)
(掖)光
河
濟
(磁磧)
齊
(城歷)
山泰
平東
交
(丘瑕)
平高
青南
(莞東)
相
(鄴)
氷
(王野)
豫北
(牢虎)
臺滑
陰濟
鄉金
沛
垣倉
留陳
梁
徐
(城彭)
邳下
(陽洛)洛
川潁
雍
(安長)
荊
(洛上)
潁南
陳
譙
(陰准)
胎盱
步瓜
徐南
(陵廣)
(口京)
徐南
吳
興吳
城宣
揚
稽會
安新
陽東
海臨
嘉永
江
安建
安晉
康南
陽桂
陽鬱
陵零
陵邵
東湘
湘
陽衡
(湘臨)
陵武
陵巴
蔡新南
(陽驛)
陽鄒
陽西
昌武
(夏江)
邳
(陵江)
都宜
門天
平南
永
武寧
陵竟
陽汶
東巴
平建
荊
陸安
(陽義)
陽隨
(陽襄)
司
(郡)
陽弋
(湖)
回
建康
豫南
江廬
熙晉
豫
(陽喬)
豐安
陰汝南
譙南
(譙)
陰汝
(孤懸)豫
蔡新
(陽眞)
頴馬(難鍾)
南
(陵廣)
陽順
野新
(陽)
陽南
興魏
興新
城新
陳上
康安
梁
秦
(鄖南)
治秦南州鄖寄
水白
壽晉
巴新
西巴北
灌梓
漢廣
新城
渠巴
山汶
(都成)
渠宕南
原晉
蜀寧
寧遂
爲犍
黎沈
益
巴
陽江
陽江東
廣南
嶲越
牂牁
提朱
寧
豐平
郎夜
平西
寧關
羌
至

★470年・「雄略14年春1月13日身狭村主青等は呉国の使いと共に呉の献じた手末の才人、漢織（あやはとり）呉織（くれはとり）と衣縫の兄媛・弟媛らを率いて住江の津に泊まった。この月に呉国の来朝者のために道を造り、磯果の道に通じさせた。これを名付けて呉坂とした。」

JR吉備線の服部駅なども服部部の住んだところ、吉備にも来ただろう。この時期には吉備では両宮山古墳などの時期。服部の南には寺山古墳がある

●470年（131巻）・宋は6月宮中裸婦人大宴会。蕭道成は難を免れる。9月蕭道成淮陰に鎮す。比較的平和だが幼主の横暴が続き、次の斉を建てる蕭道成が実力を付けていく。

▲471年・稲荷山の鉄剣銘の辛亥の年

「(表)辛亥年七月中記乎獲居臣上祖名意富比垝其児多加利足尼其児名弖已加利獲居其児名多加披次獲居其児名多沙鬼獲居其児名半弖比(裏)其児名加差披余其児名乎獲居臣世々為杖刀人首奉事来至今獲加多支鹵大王寺在斯鬼宮時吾左治天下令作此百練利刀記吾奉事根原也」

雄略の力が東日本にも及び、杖刀人などの人制が始まり、王権が強化される。

●471年(132巻)2月皇帝の行動異常、禁止語の多し南徐州刺史の晋平刺王の休祐の馬から落とし誅殺。巴陵王の休若は危機回避。5月上の病厚く休仁誅殺。7月巴陵哀王の休若誅殺。休范のみ全くす。上は蕭道成を疑い苦慮、入朝。10月垣崇祖淮北を經略失敗。皇帝の誅殺が続く。

▲472年・百済は北魏に朝貢、上表文。北魏答礼使・邵安を派遣。邵安二度目の使者は高句麗妨害し、北魏は詰問。この頃高句麗は僧道琳を密偵として送り込む。これを受け高句麗は毎年の北魏への遣使を2度行うようになる。百済と高句麗の対立激化は倭国を引きずり込んでいく。

稲荷山古墳鉄剣

▲475年（三国史記）・魏の顕祖は邵安を東來から海上で百済に送使するも、大風で到達せず。百済は度々高句麗が辺境を犯すので、北魏への朝貢中止。秋9月高句麗長寿王は兵3万人を率いて百済漢城攻撃し陥落、蓋鹵王は戦死、男女8万人捕虜、文周王は新羅援軍1万、高句麗撤退後、南下して即位。冬10月熊津に都を移す。

★476年冬（ここは1年ずれている）・高句麗王が大軍で攻め百済が滅亡。生き残りが倉下に集る。

★477年春3月・雄略は久麻那利を百済の汶州王に賜り、激励。

●477年（134巻）・宋の4月蒼梧王・後廃帝の放浪癖と虐殺趣味の恐怖。

6月蕭道成は誅殺をまぬかる。

7月廃帝・蒼梧王の殺害。蕭道成を司空、錄尚書事、驃騎大將軍、

8月開府儀同三司。

12月沈攸之の挙兵。

■478年・(倭王武の上表文)

「順帝の昇明二年、使を遣わして上表して曰く、『封国は偏遠にして、藩を外に作す。昔より祖禰躬ら甲冑をツラヌき、山川を跋渉し寧処に遑あらず。

東は毛人を征すること五十五国、西は衆夷を服すること六十六国、

渡りて海北を平ぐること九十五国、

王道融泰にして、土を廓き、畿を遐にす。累葉朝宗して歳に愆ず。臣、下愚なりといえども、忝なくも先緒を胤ぎ、統ぶる所を駆率し、天極に帰崇し、道百済を遙て、船舫を装治す。

しかるに句麗無道にして、図りて見呑を欲し、辺隷を掠抄し、虔劉して已まず。毎に稽滞を致し、以て良風を失い、路に進むというといえども、あるいは通じあるいは不らず。臣が亡考済、実に寇讐の天路を壅塞するを忿り、控弦百万、義声に感激し、方に大挙せんと欲せしも、奄に父兄を喪い、垂成の功をして一簣を獲ざらしむ。

居しく諒闇にあり兵甲を動かさず。これを以て、偃息して未だ捷たざりき。今に至りて、甲を練り兵を治め、父兄の志を申べんと欲す。義士虎賁文武功を効し、白刃前に交わるともまた顧みざる所なり。

もし帝徳の覆戴を以て、この彊敵を摧き克く方難を靖んぜば、前功を替えることなけん。窃かに自ら開府儀同三司を仮し、その余は咸 な仮授して以て忠節を勧む』と。詔して武を使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大将軍倭王に除す。」

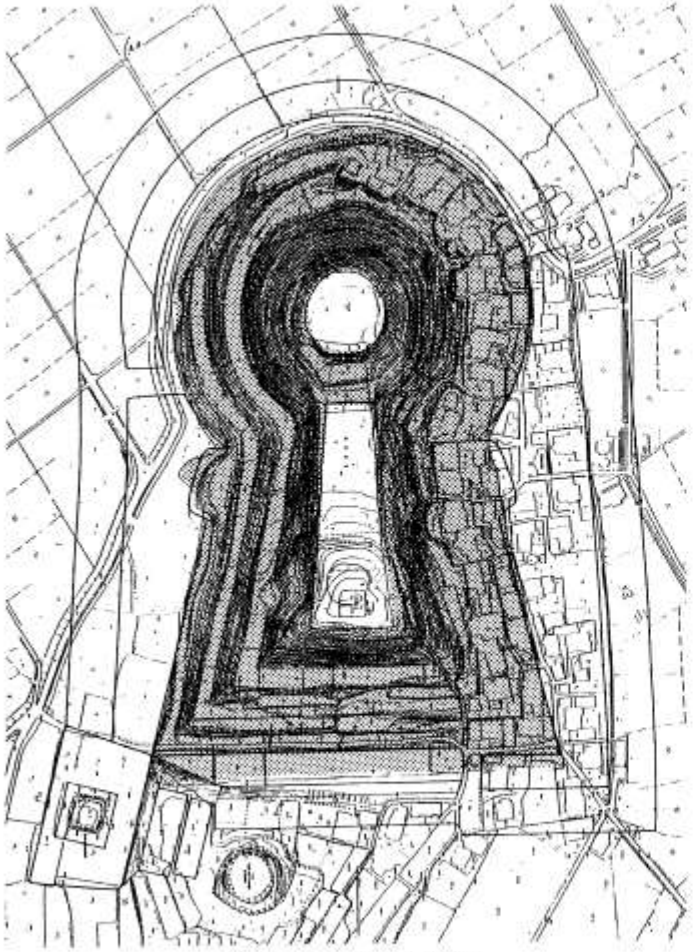
●478年（134巻）・1月沈攸之は郢城を攻め落とせず江陵に逃亡、縊死。戒厳令解除。3月黄回に帰還。4月黄回の誅殺。8月二尚方の廃止。9月蕭道成に九爵。既に蕭道成の覇権が明確になる。

★479年夏4月・百済の汶州王が亡くなり、雄略は昆支王に2番目の末多王に筑紫の兵500を与えて「親しくねんごろに戒めて」送り届けた、これが東城王となる。
★479年8月7日・雄略天皇死す。星川皇子の乱。新羅を討つ吉備尾代に蝦夷反乱、丹波まで追いかけて誅殺。

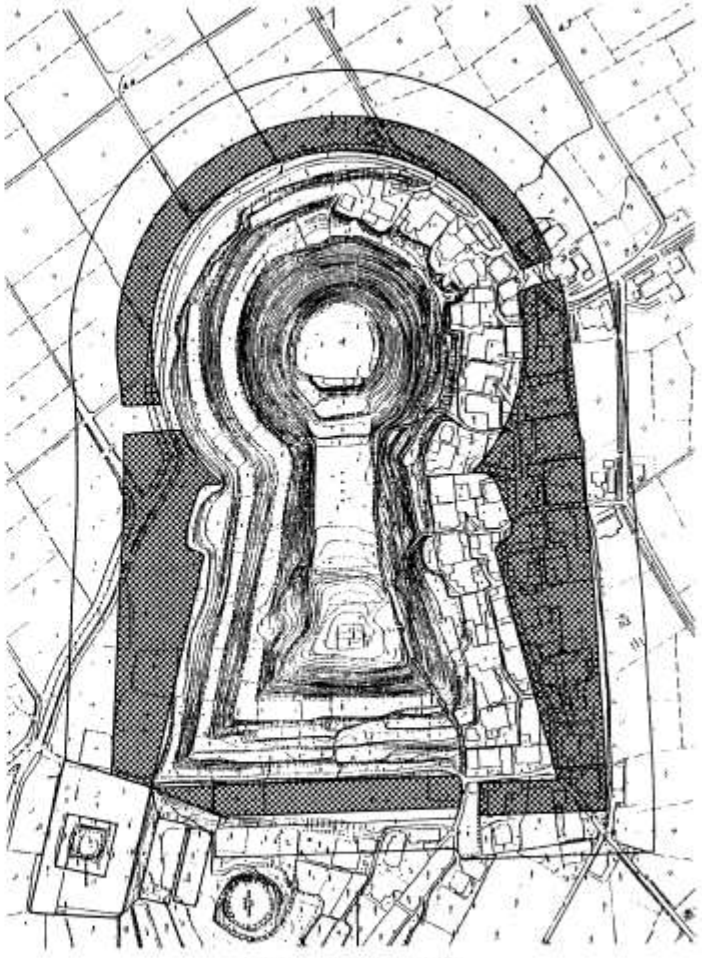
●479年（135巻）・3月蕭道成に九錫。楊運長と臨川王の綽の誅殺。王儉抜擢。4月宋の順帝禅譲。齊の蕭道成即位。嶷尚書令、驃騎大将軍、開府儀同三司、揚州刺史。

こうして雄略の亡くなったのは、宋が蕭道成に乗っ取られて滅亡する瞬間に当たり、以後南朝への朝貢が途絶える事になる。逆に宋の失墜が雄略の命取りになった可能性さえある。雄略による日本列島統一は頓挫する。

造山古墳と履中天皇陵古墳
古墳ばかり作る･相対的平和



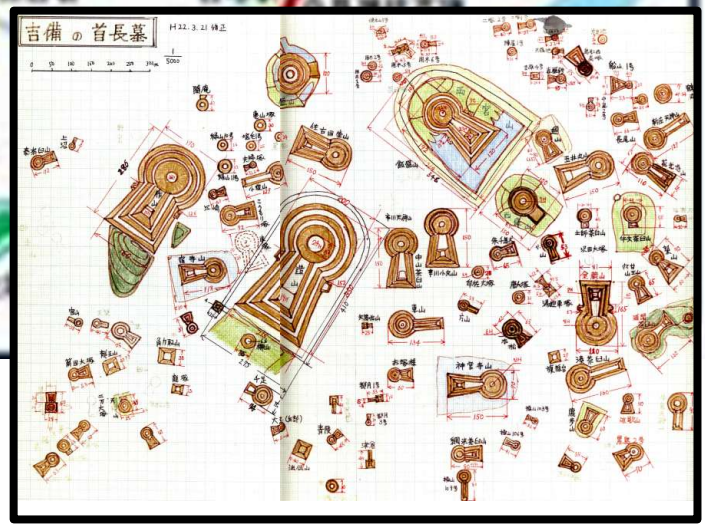
第3図 造山古墳と石津丘古墳



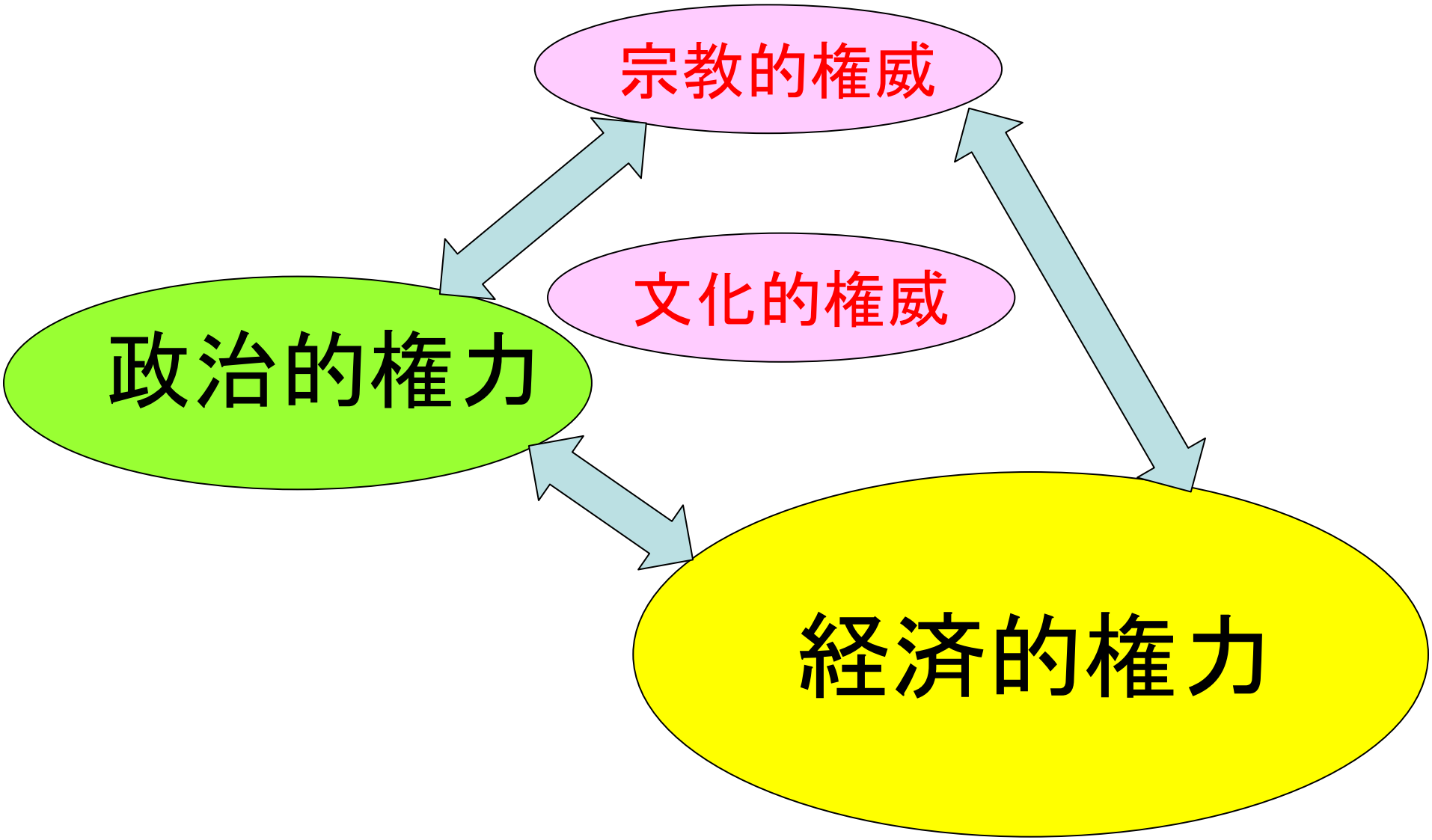
第2図 造山古墳復原図

百舌鳥古墳群

古市古墳群



吉備の媛たち

- 倭迹々日百襲姫命　吉備津彦の姉、箸墓古墳に葬られる、大物主と結婚
- 兄媛（えひめ）　応神天皇の妃、葉田葦守宮
- 黒媛(くろひめ)　仁徳天皇の妃、吉備海部直の娘
- 稚媛（わかひめ）　吉備田狭の妻、雄略天皇の妃、星川皇子の乱
- 大海媛（おおしあまひめ）　雄略時代の吉備の采女、紀小弓の妻、夫の死後渡来人を引き連れ帰国、雄略天皇に夫の墓所を求める、現在の泉南の大型古墳に比定される

天皇制の維持は平和の象徴